

## 大会名「ふぁみどくコンテスト」について

～ふぁみどくでコミュニケーション実行委員会～（矢掛町）

### 1 事業のわらい

矢掛町では教育の重点目標の一つに日本語のコミュニケーション力の向上を掲げている。今回特に家庭での読書環境の一層の充実を図るために教育機関や福祉関係機関との連携のもと、「ふぁみりー読書」を奨励し、親子間のコミュニケーション力を高め、幼少期からの言葉の育成を図ることをねらいとしている。また、「ふぁみどくでコミュニケーション」をスローガンに絵本（本）を通して家庭で楽しく親子の会話が弾み、ふれあいの時間が持てるようにという願いを込めて、図書館を中心に様々な行事の取り組みや、家庭向けにいくつかの図書通信を発行し、広く読書活動を推進している。

### 2 事業の特徴、工夫点

この事業を受け、ふぁみりー読書を推進するという観点から、前回も含めて、一人で音読するのではなく、家族で読み合うことの楽しさへ視点を当てた。

まず、昨年の夏休みから読書環境作りの一環として、継続的に家庭で読書に親しむことができるように小学生全員にヨムヨムカレンダーを配付した。図書館では「お母さんも読んでみようかな」とか「この本楽しそうね」という親子で本を選ぶほほえましい光景が見られ、一冊の本から広がる親子の絆さえも感じる事ができた。親子で相談して本を借りたり、ヨムヨムカレンダーに保護者も興味を示したりなど家庭での読書環境づくりに一歩進むことができた。

また、この事業の特徴として、大会参加者は、読み聞かせやお話会に参加しようという条件も含まれていたため前年度は、「筒井先生のストーリーテリング」、今年度は、「そらきた！ホイ」さんのお話会を計画し参加を募った。それぞれ1時間余りの実演であったが、つぶやきの言葉や楽しい笑い声、うなずく子どもたち、見守る保護者や関係者共にお話の世界に引き込まれた。話し手と聞き手が同じ空間の中で「お話の世界」に入り込み楽しい時間を共有することができた。



筒井悦子先生のストーリーテリング

### 3 事前準備等具体的な事業の流れ

実行委員は、図書館職員・教育課職員・教育委員・読み聞かせボランティアで構成し、ふぁみどくコンテストに向けての準備を進めて行った。募集の方法やふぁみどくコンテストに係る内容について、また、審査の先生の決定などについて度々話し合いの時間を持った。

広報の方法として、まず小学校に呼びかけ、ポスターの掲示やチラシの配布、校長先生はじめ先生方からの直接言葉によるアピールなどをお願いした。

審査の先生には、絵本作家や詩人、絵本や児童本に詳しい専門家の方々をお願いした。

広報の甲斐あってか、1年目は23組の家族の参加があった。また、今年は昨年の反省に基づき小学校に限定せず、中学校、高校へと参加の幅を広げた。2年目も26組の参加で会を開催することができた。

#### 4 言葉の力大会の様子

猛暑の8月、審査の先生3名をお迎えし、言葉の力・(夏大会)「ふぁみどくコンテスト」やかげ大会を開催。会場は、関係者もときどきするほどの緊張感が漂う雰囲気の中、低学年から発表が始まった。出場者には音読についてのお願いは特に行わず自然な形でということをお願いしたので、声が小さかったり、早口になったりということもあったが、温かい家庭のぬくもりが伝わる発表、何度も練習したであろうと想像できる家族もあり、ほのぼのとした時間の流れの中で会が進んでいった。審査の結果が出るまでの時間を利用して、1年目は読み聞かせグループによる紙芝居や絵本の読み聞かせ、2年目は県内の朗読グループの方による民話の朗読を楽しんだ。

大会は約3時間を要し、子どもたちにとっては最後の表彰式が終了するまで大変長い時間であったが、全員が出場者の発表を熱心に聴き、最後までコンテストの雰囲気に浸ることができた。



H22年度ふぁみどくコンテスト

#### 5 成果と今後の課題

2年間「ふぁみどくでコミュニケーション」をスローガンに掲げ、コンテストを開催した。

あまりの緊張に声が出ない、大きく息を吸い込み何度も何度も深呼吸、静まりかえる会場の全員が頑張ると心で応援。やっと第一声が出た時には誰もがよかったと安堵したシーン。はずかしくてうつむいたままで読む子。でも寄り添うお母さんに励まされて安心して読み始めた子など、この実践を通して、私たちは家族の温かさ、親子の絆を垣間見ることができた。1冊の本が家族だんらのきっかけを作り、勇気をもってコンテストに参加し頑張ってくれた家族に、コンテストに関わった全員が感動した時間だった。1年目に参加した家族は2年目も挑戦したいと2度目の参加、初めての家族は来年も参加したいと意欲満々。嬉しい声をたくさんいただくことができた。

また、秋大会に参加した家族の方から「孫は大勢の前で話をしたり、自己表現したりすることが苦手だが、本当に良い経験になった」と、お孫さんの出場に喜びを隠せないおじいちゃんからの報告。これをいただきましたと賞状を見せてくださった家族のみなさん。また他地域の子どもの発表に刺激をうけましたというお母さんのお話など、秋大会の参加もそれぞれの家族にとって素晴らしい体験となったようだ。

今こそ、“ふぁみどくでコミュニケーション”絆を深めよう！・・・より一層「ふぁみどくの輪」が広がるように、環境づくりに取り組んでいきたい。



H23年度ふぁみどくコンテスト